

ICTで 授業 をDX!

学年 小学校複数学年 教科 算数 など

デジタルワークシートの活用で、個別進度学習を

使用するアプリケーション等

まなびポケット
(スクールタクト)

DXする題材 算数の教材開発

DXのねらい 児童一人一人が、自分のペースで学習を進めることができるようにする。

ICTを活用することで できること

- ・児童は、他の児童の取組を見て参考にしたり、詳しく聞きたいことは直接話しに行き、考えの交流をすることができる。
- ・既に分かっていることに長い時間を費やしたり、分からないのに次に進んでしまったりする児童を減らすことができる。
- ・教師は、提出されたワークシートを評価し、コメント等でフィードバックすることができる。
- ・ワークシートの採点待ちで長い行列を作ることが無くなる。
- ・全体的見通しをもって学習に取り組むことができる。

DX前 (ICTを使っていなかった頃は・・・)

1 準備段階

- ① 各時間の内容に応じたワークシートを作成する。
- ② 出来上がったものを人数分 (+ α) 印刷する。
- ③ 出来上がった大量のプリントを教室まで運び込む。
(②、③に多くの時間を要し、運ぶのも一苦労する。)

2 学習の場

- ① 一人一人にプリントを配付する。
(配布方法は様々。列ごとに配付・順番に並べて置き1枚ずつ取らせる、など…)
- ② ワークシートをやり終えた児童から提出し、教師が評価する。
(提出の仕方を工夫しておかないと、何種ものプリントが混在し、整理できなくなる。)
(チェックの仕方によっては、順番待ちの行列ができることもある。)
- ③ 分からないところがあれば、教師や分かっている友達に尋ねる。
(自分から尋ねるのが苦手な児童は、ここで固まってしまうことが多い。)
- ④ 児童の理解度に応じてフィードバックする。
(児童を呼び出すなどして、個別に指導を行う。)

DX!

DX後 (赤字はICT活用場面)

1 準備段階

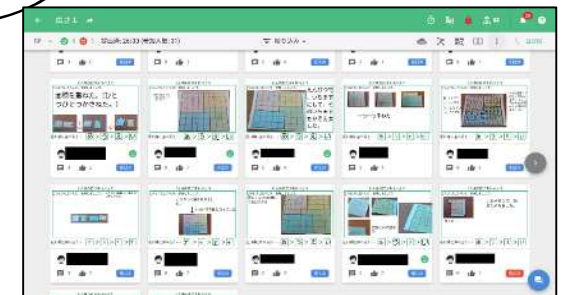
- ① 各時間の内容に応じたワークシートを作成する。
(教科書に掲載された図も、スキャナやカメラでデータ化してそのまま使える。)
- ② ワークシートのデータをそのまま送信する。
(1クリックで即時配付でき、全員がすぐに課題に取り組める。事前の配付も可能となる。)



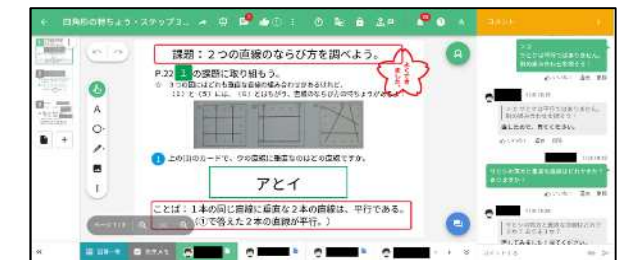
↑教材はシンプルに作成できる。
配付作業も1クリックで簡単!

2 展開

- ① 教科書の資料を読み解きながら、自分のペースで課題に取り組む。
- ② 分からないときは、様々な方法で解答に迫ることができる。
 - 教師に分からないことを聞く。
 - 解答できた友だちに聞く。
 - 解答を終えた**友達のワークシートを見て**参考にしたり、本人に質問したりする。
- ③ **完成したワークシートは1クリックで提出**。
フィードバックがあるまで次に取り組む。
提出したものを直したいときは、すぐに提出を取り消してやり直すこともできる。
- ④ 教師からの**コメントやスタンプでフィードバック**を受けられる。
受けた指摘が分からないときも、②のように自分の方法で考え直すことができる。
- ⑤ 教師は、上手にまとめているなどの**手本にしたいワークシートを児童に示し**、
どのようなところが優れているか考えさせるなどして参考にさせることができる。



↑児童は思い思いの方法で表現できる。



↑フィードバックや質問のやり取りも記録が残るので振り返りができる

3 学習を終えた後

- ① フィードバックを行ったものをそのまま見ることができるので、返却作業が不要。
端末上でいつでも見ることができるので、「無くした」「新しいノートにしたから持っていない」のようなことが起こらない。

授業者から (成果・課題・留意点)

児童の主体性に任せる中での活動となるため、どこまで理解を深めた状態で進められているのか、チェックの仕方には課題が残る。一方で、児童は自分の理解度を他者と比べるなどして確かめながら進めており、主体的に理解を深めようとする姿が見られた。また、学習している単元だけでなく、他の学習内容にも目を向けて復習しようとする(「小数の割り算が必要になりそうだから、計算をもっと練習しておきたい。」など)意欲も見られた。学習の主体を児童にすることで、自ら課題を見付ける幅も広がったといえるのではないかと思います。フィードバックの方法などまだ課題が多い取組であるので、試行錯誤を重ねながら、よりよい方法を模索していきたい。